



保井 志之 D.C



## 「神経関節機能障害」特定のための「プレッシャーテスト」と「ストレステスト」

アイソレーションテストによつては、主に脊柱領域の神経関節機能障害のセグメント

な方向」を特定し、「ストレステスト」は「異常な方向」を特定します。

の「部位」が特定されると次の神経関節機能障害の「方向」がさらに特定されます。その時にアイソレーションテスト

アイソレーションテストで神経関節機能障害の部位が確認された後、次に椎骨の「変位」を特定します。このとき、

つあります。それは、「プレッシャーテスト」と「ストレステスト」です。この二つの検査法は、相反する検査法で「プレッシャーテスト」は「正常

使っていますが、椎骨が位置的にズレているという意味ではありません。特定の椎骨の可動方向に対する神経生理学的な機能障害という意味で

す。アクティベータメント

クティベータメントセミナーを受講される先生方の間では、

を初めて学ぶ受講者には、この概念をしっかりと理解して

そのような考え方をもってアクティベータメントを行うと考え

いたできるように毎回努めています。もしも、アクティベータ

器でも、アクティベータメントのセミナーを継続すること

器で脊椎関節の位置的なズレを構造的に治すなどと誤解

ことでその機械論の矛盾点を体験的に修得され、本質的な

されるアクティベータ器に対する信頼が損なわれかねません。ある筋の情報では、美

容目的に顔の歪みを矯正するためにアクティベータ器が使

われていると聞きました。残念なことですが、アクティ

ベータメントの正規的教育を受けずに本質的な理解もなく

アクティベータ器を使っているのだと思われま

す。アクティベータメントの含むカイロプラクティックの

アジャストメント(矯正)が、椎骨をA地点からB地点に可

動させることだといまだに信じている治療家も少なくはな

いかもありません。初めてア

クティベータメントのセミナーを受講される先生方の間では、

そのような考え方をもってアクティベータメントを行うと考

えている人も少なくはないよう

です。でも、アクティベータメントのセミナーを継続すること

でその機械論の矛盾点を体験的に修得され、本質的な

学習に変容していくよう

です。その機械論の矛盾点を体験的に修得され、本質的な

学習に変容していくよう

です。その機械論の矛盾点を体験的に修得され、本質的な